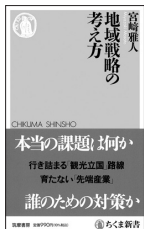


# 資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

## ■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



### 『地域戦略の考え方』

宮崎雅人著  
筑摩書房発行  
2025年10月／990円（税込）  
所蔵箇所：信濃町

「じゃあ、どうすればいいんですか？」——基盤産業の衰退と人口減少が進む地域の現場での切実な問いだ。本書は、前著『地域衰退』に続き、これに正面から向き合った著者なりの回答である。

企業誘致や産業人材の育成といった従来の市場中心政策は一定の成果を上げてきたが、持続可能性の確保には不十分だ。本書の核心は、住民参加や組織による「協力」を重視した政策の枠組みである。包括的地域産業政策・社会的連帯経済・社会的共通資本という3つの柱に共通するのは、競争原理だけでなく対話と参加を経済活動に組み込み、持続可能性を高める考え方だ。企業間協力や協同組合の事例を通じ、「協力」が市場経済でも機能しうることを示している。新たな協力関係の構築には利害調整や時間的・経済的コストという課題もある。しかし各地域が自らの資源と特性を見つめ、住民参加による民主的プロセスを経ることと市場経済へも適応できるとしている。

本書は、単なる処方箋の羅列ではなく、それぞれの地域が自立的な発展を目指すための「考え方」そのものを問うている。（原）

## ■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

### 『30年の歩み』

運輸調査局発行  
1976年5月  
所蔵箇所：上野（一般公開中）

本年（2026年）、交通経済研究所は創立80年を迎える。前身の運輸調査局が誕生したのは第2次世界大戦終了から9か月後である。交通界は混乱状態にあったにもかかわらず、交通問題に関する専門の調査研究機関がスタートを切った。

本書は、創立30年のさいにまとめたもので、設立の経緯や調査研究の変遷について詳しく紹介している。生い立ち／歩みの回顧／調査研究の推移／事業活動の足跡／などから構成されている。

研究所の誕生当時、交通専門の調査研究機関の必要性は、復興計画が進むにつれて高まっていた。しかし、どのような組織にするかについては、占領下ということもあり、紆余曲折をたどった。旧運輸省、国鉄がまだ公共事業体に移行していないころである。また、復興期から高度成長期へと時代が変化していくなか、交通界の動きに呼応し、めまぐるしく研究体制を変更した。このように本書では、ときどきの課題をあげながら、どう対応したかについて伝えている。

資料室では、本書をはじめ研究所が刊行した図書を保管している。ぜひご覧いただきたい。（土方）

## 資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP（<https://www.itej.or.jp/about>）をご覧ください。

担当：古森崇史、原祥太、土方規義、田邊由佳

